

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)【児童発達支援(通園)】

公表:2024(令和6)2月28日

アンケート期間 : 2024(令和6)年1月12日~1月26日

事業所名 小金井市児童発達支援センターきらり

保護者(児童)数 21

回収数 17

回収率 81%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16	1			・室内は十分とれていると思います。園庭が少し狭いと感じました。	・園庭は限られたスペースとなりますが、楽しく過ごせるよう、遊び方等工夫します。 ・近隣の公園へ出かけ、様々な広さや遊具を体験できるよう配慮します。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	17				・ベテランの先生が多くて助かります。	・どの職員も丁寧に、専門的な支援が提供できるよう、チームで取り組んでまいります。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	17					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	16	1			・いつもとてもキレイで気持ちがよく、日光もあたるのでよいと思います。	・きらりの建物も10年が経過し、傷んでいる部分も出てきました。快適に過ごせるよう環境整備に努めます。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	17					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	17					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17					
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	17				・どんな感じで個別学習が 4 終えたのかフィードバック があると嬉しいです。	・集団での様子だけでなく、個別学習の様子もお伝えできるよう、サービス提供記録や支援の報告書等で配慮していきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	9	5	1	2	・年少なのでまたないのですが増やしてほしいです。子供同士のふれあいやりとりをすることで成長や発達をうながしたいです。 ・機会はあるが回数は少ない。 ・年2回ほどあったと記憶していますが、もう少し増えてもよいかと思いました(相手の意見もあるので難しいとは思いますが...)	・新型コロナウイルス感染症による影響により、昨年度までの3年間、交流保育が実施できない状況となり、今年度は久しぶりの再開となりました。 ・交流保育の内容や回数については、きらりの年間プログラムを見直ししながら、保育園と相談していきます。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16	1				・運営規程は玄関に備え付けております。利用者負担等は入園説明会及び重要事項説明書にてご説明しておりますが、さらに分かりやすい説明に努めます。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	17					

保護者への説明等	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	11	3	1	2	・サーキットのプログラムの勉強会がありました。とても参考になるのでペアレント・トレーニングも増やしてほしいです。 ・受けられるのはわずかです。	・保護者向け学習会を増やすよう、検討します。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	17					
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16	1				・定期的な面談のほか、必要に応じてお電話や面談等での相談を行っています。日々のサービス提供記録も活用しております。気になる様子がある時にはきりりからもお電話等いたします。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	14	3				・クラス保護者会、親子参加の行事等で交流の機会を作っています。
	16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	17				・先生方がとても丁寧かつ困りごとに対し、真摯に相談にのっていただけるのでとても感謝しております。	・保護者の皆様との情報共有は職員にとってもとても貴重で助かっております。定期的な面談のほか、必要に応じてお電話や面談等のご相談が出来ますのでお声かけください。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	16				1	・毎月のおたより、保健だより、給食の献立・情報を発信しております。 ・第三者評価は「とうきょう福祉ナビゲーション」のサイトへ、こちらのアンケート結果はホームページに掲載いたします。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	17					サービス提供記録の入れ間違い事故を起こしたことを深く反省し、手順等見直しました。入れ間違い防止や業務の効率化を目的に、連絡アプリの導入を検討しています。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	17					送迎バスと自転車の事故を受け、マニュアルの見直しを行っています。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16				1	・毎月1回の避難訓練を実施しております。想定パターンを増やして取り組んでいます。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	15	1			1	・毎日しっかりあそんで、満足して、バスでお昼寝して帰ってきます。 ・楽しく通園できるよう、日々のプログラムを工夫していきます。
	23	事業所の支援に満足しているか	17					・保護者の皆様との連携を大切にしながら、お子様への支援を充実させていくよう、クラスに入る職員のほか、看護師、栄養士・調理員、運転手・添乗員、一同が力を合わせて取り組んでまいります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

☆端数処理・無回答などにより、合計が100%にならない項目があります。

# 事業所における自己評価結果(公表)【児童発達支援(通園)】

討議年月日: 2024(令和6)年2月26日

公表: 2024(令和6)年2月28日

事業所名 小金井市児童発達支援センターきらり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	77.8%	22.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋がもう少し広いとよい。</li> <li>・保育室で広さが異なる。</li> <li>・園庭の遊具がもう少し低年齢でも遊びやすいものがあるとよい。</li> <li>・個別学習を行う場所を確保したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営基準以上の広さは確保できているが、支援を実施する上では保育室の広さや数が不足していると感じられる。</li> <li>・備品を置く場所を工夫している。</li> <li>・廊下やホールも活用し、衝立を使用するなどの対策で対応している。</li> <li>・クラスの子どもの人数に合わせて使用する保育室を調整した。</li> <li>・園庭の遊具を検討する。</li> </ul>
	2	職員の配置数は適切である	100.0%			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100.0%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や絵カードを活用し、一日の流れをスケジュール表として視覚的に示し、子どもが見通しを立てやすいよう工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的な支援が分かりやすく示されるよう、クラス間で情報共有を行う。</li> </ul>
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100.0%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別学習やクールダウンに使用できるスペースがあるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな場所の確保は困難なため、教材や備品等で環境設定を工夫する。</li> <li>・活動によって部屋の設定や使用する場所を変更して対応している。</li> <li>・老朽化や不具合に関しては、修繕を行い、規模の大きい修繕については市と相談する。</li> </ul>
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100.0%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの受け入れ前の打ち合わせ、支援後の振り返りを毎日行い、情報を日々共有し業務に反映させている。</li> <li>・クラス会議を月1回行い、子どもへの関わり方について共有している。</li> </ul>	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事についてのアンケート、第三者評価等、ガイドラインに基づくアンケート以外にも保護者の意向を把握する機会を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からの写真データ提供の要望について、アプリの導入や販売を具体的に検討する。</li> </ul>
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100.0%			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100.0%			<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き第三者評価を受審する</li> </ul>
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100.0%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己啓発研修では職員自ら学びたい内容を選ぶことで、視野の広がりを図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必須となる「感染症・食中毒等」の研修の流れを作る。</li> </ul>

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100.0%				
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	88.9%	11.1%	・心理検査等はセンター内で実施する以外は保護者からの情報提供により共有している。	・検査結果等は保護者からできる限り情報提供していただき、支援の参考にする流れを作れるとよい。 ・引き続き標準化の有無に関わらず、子どもの状況を把握し、具体的な支援の参考になるようなツールを活用していく。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100.0%				
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100.0%				
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100.0%		・各クラスの活動はクラスで、行事は係分担する等、チームで行っている。	・クラス間での情報交換も密にしていく。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%		・職員間でアイデアを出し合い、運動、製作、感触等、バランスを考え、週案・月案を立てて実施している。 ・子どもの様子を見ながら子どもに合ったプログラムを決めている。 ・栄養士、調理員と協力し、食育の取り組みを行っている。		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100.0%		・子どもの様子に応じて小人数での活動やグループ分けした活動等を取り入れている。 ・個別学習も計画的に取り入れている。		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100.0%		・毎朝打合せを行い、非常勤職員を含めクラス全体で流れや注意事項、支援のねらいなどを確認している。		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100.0%		・非常勤職員を含めその日のふり返しを行い、子どもの様子や支援方法など、気づきを共有している。		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%		・取り組みの経過を把握し見直しやすくするため、支援目標を記載した記録用紙を導入した。		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100.0%				
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100.0%				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100.0%		・必要に応じて連携し情報共有している。		
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100.0%					

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100.0%			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100.0%		・保護者の承諾のもと、転園前に引継ぎを行い、支援経過を共有している。転園後にアフターフォローとして園を訪問し、園や保護者と情報共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100.0%		・保護者の承諾のもと、卒園時には引継ぎを行い、アフターフォローで学校を訪問し、授業の様子を見学し子どもの様子を学校・保護者と共有している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100.0%		・他市の児童発達支援センターの研修に参加したり、見学を行っている。	・他機関の見学機会を増やしていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100.0%		・隣接する保育園と交流保育(公園遊び、園庭遊び、室内での課題遊び)を行っている。	・感染症の流行状況等に左右されることもあるが、引き続き、交流保育を計画的に行っていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100.0%		・自立支援協議会には管理者が参画している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%		・サービス提供記録のほか、電話、場合によっては面談を行い保護者と情報を共有している。	
保護者への説明責任	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100.0%		・保護者学習会を行っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100.0%			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100.0%			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%		・年3回の面談のほか、サービス提供記録を活用してやりとりしている。 ・サービス提供記録で困っていること悩んでいることがある場合は、電話や面談等で相談にのり、助言している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	77.8%	22.2%	・保護者が父母の会を運営している。職員の参加はない。 ・クラス保護者会や保護者参加の行事(親子交流会等)を行っている。	・保護者交流の場として引き続き保護者会や行事等を行っていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100.0%			

任等	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100.0%		・おたより、保健だより、給食の献立・情報など毎月発信している。行事はその都度おしらせを配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100.0%		・サービス提供記録の入れ間違い事故が発生した。	・入れ間違いが生じないよう、手順を見直しダブルチェックを行っている。 ・サービス提供記録の入れ間違い防止や業務の効率化を目的に、連絡アプリの導入を検討する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%		・子どもに合わせた教材を準備し、支援を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	66.7%	33.3%	・地域の資源(公園、お店、農家さん等)の活用をプログラムに取り入れている。 ・センターとして市民向け講演会を行っている。	・今後も積極的に地域の資源を活用していきたい。 ・市民を対象とした講演会は引き続き実施する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100.0%		・災害のほか、不審者対応の訓練も行った。	・不審者対応では必要な備品も揃えていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100.0%			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100.0%			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100.0%			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100.0%		・ひとつのファイルにまとめている。	・内容の分析・対策案を検討する係を設け、職員全体で共有する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100.0%		・全ての職員に対して研修を実施している。	・支援において不安や疑問に思うことは、職員間で共有していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	77.8%	22.2%	・事業所として身体拘束についての取り決めを行い、実施している。 ・研修や日々の振り返りの中で支援が適切であるか話し合うようにしている。 ・あまりそのような状況がなかったが、支援計画に記載することはなかった。	・現在の取り組みや手順が適切かどうか、見直していく。 ・具体的にどのような点が対象となるのかを確認していく必要がある。 ・支援において不安や疑問に思うことは、職員間で共有していく。

☆端数処理などにより、100%にならない場合があります。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)【放課後等デイサービス】

公表: 2024(令和6)2月28日

アンケート期間: 2024(令和6)年1月11日~2月1日

事業所名 小金井市児童発達支援センター きらり

利用50名(回答22名)

回収率44%

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20	1		1	・外(園庭のような)で走ったりできるスペースがあると有難い。 ・もう少し走れる広さが欲しい。	園庭の使用に関しては、時間差で到着する子どもの安全管理等の課題から使用しておりません。場面や時期により活用可能か検討していきます。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	18	2		1	・たまに先生3人で指導されている時は帰宅時の大人の対応が大変そうです。	配置基準(児童5:職員1)は満たしていますが、職員数の維持とともに、より専門性を高めるよう、研修等に努めます。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	19			3		
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	21				・各子供の特性を把握してきめ細かくお手本になる様に指導されています。	
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	21			1	・季節ごとの行事や活動が本人達に合わせて作られています。子供本位。	職員間で話し合いながら課題を準備するとともに、外部講師の活用、外出プログラムの実施等、様々な経験につながるよう工夫していきます。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	4	5	7	・障害に対し差別的な発言をする児童も学校(普通級)にはいる。そのような場に出会わない物理的に距離がある場なら交流があってもよいと思う。	現在のところ、きらりの中での子ども同士の関わりを中心に考えており、設定する予定はありません。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21	1				送迎時のお話や支援計画・報告でお伝えしています。利用者負担等につきましては、新規利用時の説明会と重要事項説明書にてご説明しています。
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	22				・課題を子どもの発達状況に合わせて段どりを含めて考えていただいています。	
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	22					
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	5	3	7	7	・各家庭忙しいので無理だと思います。	「他の保護者との交流があるとよい」というご意見をいただくこともあります。自由参加で希望する保護者同士がお話できる場等、検討していきます。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	18			4		事業所、法人として体制を整えています。
12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	21			1			

	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	18	1	1	1	お便りでのお知らせが中心となっています。行事等では、様子をより分かりやすくお伝えできるように、写真の掲示など、引き続き工夫していきます。
	14	個人情報に十分注意しているか	17	3		2	サービス提供記録の入れ間違い事故を起こしたことを深く反省し、手順等見直しました。入れ間違い防止や業務の効率化を目的に、連絡アプリの導入を検討しています。
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	21			1	緊急時の対応等はお知らせを配布しております。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	22				
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	17	4	1		・とても楽しみに通っています。 ・毎週楽しみにしています。ありがとうございます。 職員やお友達と出会い、やりとりする場として、また様々な経験につながるよう、活動内容等、引き続き職員間で話し合い、見直してまいります。
	18	事業所の支援に満足しているか	22				・いつもありがとうございます。
							保護者の皆様との連携を大切にしながら、お子様への支援を充実させていくよう努めてまいります。

☆無回答は「わからない」に計上。

※Ⅰ 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※Ⅱ 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。



事業所における自己評価結果(公表)【放課後等デイサービス】

討議年月日:2024(令和6)年2月26日

公表:2024(令和6)年2月28日

事業所名 小金井市児童発達支援センター きらり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100.0%			
	2	職員の配置数は適切である	75.0%	25.0%	・非常勤職員を含め、職員数を確保している。センター内での協力体制がある。	・運営基準上の配置(児童5:職員1)は満たされているが、職員の休暇は取ってはいないが、柔軟に取りやすい状況ではない。センター内での協力体制は維持しつつ、休暇等取りやすくなる体制を整えていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25.0%	75.0%	・段差のない床、エレベーターの設置など基本的なバリアフリー化は配慮されている。トイレは一部のみとなっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100.0%			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100.0%			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100.0%		・毎年度受審し、支援の向上、業務の改善に努めている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100.0%		・自己啓発研修では職員自ら研修内容を選択している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100.0%			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100.0%		・検査等、保護者より情報を得ている。	・保護者からできる限り情報提供していただき、支援の参考にする流れを作れるとよい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100.0%		・担当を作った上で意見を出し合えるよう工夫している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%		・外部講師を活用し、様々な経験ができるよう工夫している。	・外部講師を継続的に活用することで活動内容がよりよく更新されることをねらう。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100.0%		・夏休み期間に長時間の外出を行うなど工夫している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100.0%			・集団活動の中での個々への対応方法の工夫を深めていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100.0%		・非常勤職員を含めて毎回行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100.0%		・非常勤職員を含めて毎回行っている。	・気になることの振り返りだけでなく、良かった点も共有し適切な支援へつなげていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100.0%				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100.0%			ガイドラインへの意識を深める取り組みを行う。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75.0%	25.0%	センターの相談支援を利用していることが多く、相談支援専門員との連絡は密である。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100.0%		保護者送迎のため、学校との年間予定等の定期的なやりとりはないが、必要時には調べている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			現在の受け入れはないが、必要時には連絡体制をとる。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50.0%	50.0%	センター内での引継ぎは行っている。	保護者を通じた情報共有が主だが、必要時には関係機関への連絡を行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			対象を小学校6年生までとしているため、成人期の支援への引継ぎはない。	センター内の相談支援事業所では必要に応じて引継ぎを行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100.0%			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		100.0%		特に設定していない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	75.0%	25.0%	管理者が委員として参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%		保護者による送迎をお願いし、送迎時に情報共有を行っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100.0%		センターとして実施している。職員もサブスタッフとして運営に携わっている。	職員のペアレント・トレーニングの知識を子どもへの関わりや保護者への助言に活かす。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100.0%			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%			送迎時のお話しの他、年3回の保護者面談を行っているが、今後の方向性等、まとまったお話が必要な時には、別に面談を設定する等の工夫が必要である。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100.0%	センターとして実施しているペアレント・トレーニングについて、数年後の集まりを行ったところ好評だった。	保護者から「他の保護者との交流があるとよい」というご意見をいただくこともある。保護者同士、お話ができる場としての取り組みを検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100.0%			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100.0%			
	35	個人情報に十分注意している	100.0%		サービス提供記録の入れ間違い事故が発生した。	サービス提供記録の入れ間違い防止や業務の効率化を目的に、連絡アプリの導入を検討する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%		子どもに合わせた教材を準備し、支援を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50.0%	50.0%	・地域の資源(駅やお店、農家さん等)の活用をプログラムに取り入れている。 ・センターとして市民向け講演会を行っている。	・今後も積極的に地域の資源を活用していきたい。 ・市民を対象とした講演会は引き続き実施する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100.0%			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100.0%		他の事業と協力して定期的 に実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100.0%		全ての職員に対して研修を 実施している。	支援において不安や疑問に思うことは、職員間 で共有していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75.0%	25.0%	事業所として身体拘束につ いての取り決めを行っている。	支援において不安や疑問に思うことは、職員間 で共有していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100.0%		保護者を通して確認してい る。おやつは主に市販品を 活用している。	新しい市販品の購入時や新型コロナウイルス感 染症の5類移行後に復活した調理課題では特に 見落としがないか注意する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	75.0%	25.0%	ひとつのファイルにまとめ ている。	内容の分析・対策案を検討する係を設け、職員 全体で共有する。

☆端数処理により、合計が100%にならない項目があります。